

【取材協力】

西南学院大学

〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号
<http://www.seinan-gu.ac.jp/>

西南学院は1916年、アメリカ人宣教師C.K.ドージャーによって創立された。キリスト教精神を教育理念の根幹としており、神学部、文学部、商学部、経済学部、法学部、人間科学部、国際文化学部を擁する文科系総合大学。外国語教育で高い評価を受けている。また世界12カ国36大学におよぶ協定校との交換留学制度などの国際交流プログラムも充実している。言語教育センターは2007年に開設され、2012年4月に全面的にリニューアルされた。



西南学院大学 導入事例



製品に関する情報はEIZO Webサイトで

www.eizo.co.jp

製品に関するお問い合わせは

受付時間 月～金9:30～17:30(祝日、弊社休業日を除く)

EIZOコンタクトセンター  **0120-956-812**

株式会社ナナオ 〒924-8566 石川県白山市下柏野町153番地

Copyright ©2012 EIZO NANA O CORPORATION All rights reserved.
(120906)

「語学の西南」と称され、高い評価を受けている西南学院大学の語学教育。その中核となる「言語教育センター」が、2012年4月、最新機器を豊富に揃えた新棟に移転オープンした。「学生が自ら学びたい学習環境」をコンセプトとしたユニークな設計で、全国の教育界も注目する同センター。先進のITシステムとAV環境を整えた同センターが厳密な検討を経て選定したのは、EIZOのモニターだった。

FlexScan EV2116W

FlexScan T1721

FORIS FS2332

ColorEdge CG243W-B



デザイン、機能性、品質…
あらゆる観点で検討した結果、EIZOモニターの導入を決定。

学生からも高い評価。 “語学の西南”の新しい 教育拠点が開設。

創立から百年、九州私大の雄

西南学院大学は福岡市にキャンパスを置く私立大学。1916年の創立以来、キリスト教に基づく人格形成教育を基盤に、数多くの人材を輩出してきた。詩人の川崎洋やミュージシャンの財津和夫、俳優の米倉斉加年なども同校で学んだ一人だ。

“語学の西南”と称されるように、高水準の語学教育にはかねてより定評があり、世界11ヶ国34大学との交換留学制度や短期語学研修制度の設置、世界各国からの留学生受け入れなど、国際色豊かな教育プログラムを推進、「世界」で活躍できる人材の育成に力を注いでいる。

そんな同校の語学教育の中枢を担うのが「言語教育センター」である。2007年に開設された同センターでは、全学部全学科の学生を対象に外国語教育の場を提供。今日では英語、フラ



ンス語、ドイツ語をはじめ、中国語、韓国語など全部で10ヶ国の言語教育に対応している。西南学院大学の言語教育は、九州のみならず全国の大学からも注目を集め、各校からベンチマークとされる存在となっている。



【メディア学習室】DVD・ブルーレイなど映像メディア教材や書籍類、エラーニングシステムを利用して、自由に語学学習ができる。

新設された言語教育センター

2012年4月、言語教育センターは2年におよぶ計画・建設期間を経て、装いを新たにオープンすることとなった。今日では多くの大学で言語教育センターが設置されているが、西南学院大学のセンターは「教室よりも教室外」の語学環境に力を入れたことが最大の特長だ。つまり授業が行われ出欠をとる教室には、学生は否応無く来る。しかし語学は学生が自分でやる気を出して勉強することが学びの基本。そのため学生が「自ら学びたい」というような学習環境、授業がなくても「訪れたい」というような施設の実現が望ましい。「教室外に力を入れた」というのはそういう意味である。こうして新しく建設された4階建てのセンター棟には、さまざまな工夫を凝らした学習空間が配置されている。



【音声収録スタジオ】DVD教材などの音声収録のためのスタジオ。編集作業も可能。

【AVスタジオ教室】

学生のプレゼンテーションやアクティビティの撮影、オリジナル教材の制作などに活用。スクリーンの後方からGoogleストリートビューなどの映像を投射。海外での街頭インタビュー場面の演出もできる。

※Googleストリートビューは、Google Inc.の商標です。



CALL教室



LL教室



AV教室

【教室】2階～4階にはCALL教室、LL教室、AV教室が配置。



【発声練習ブース】

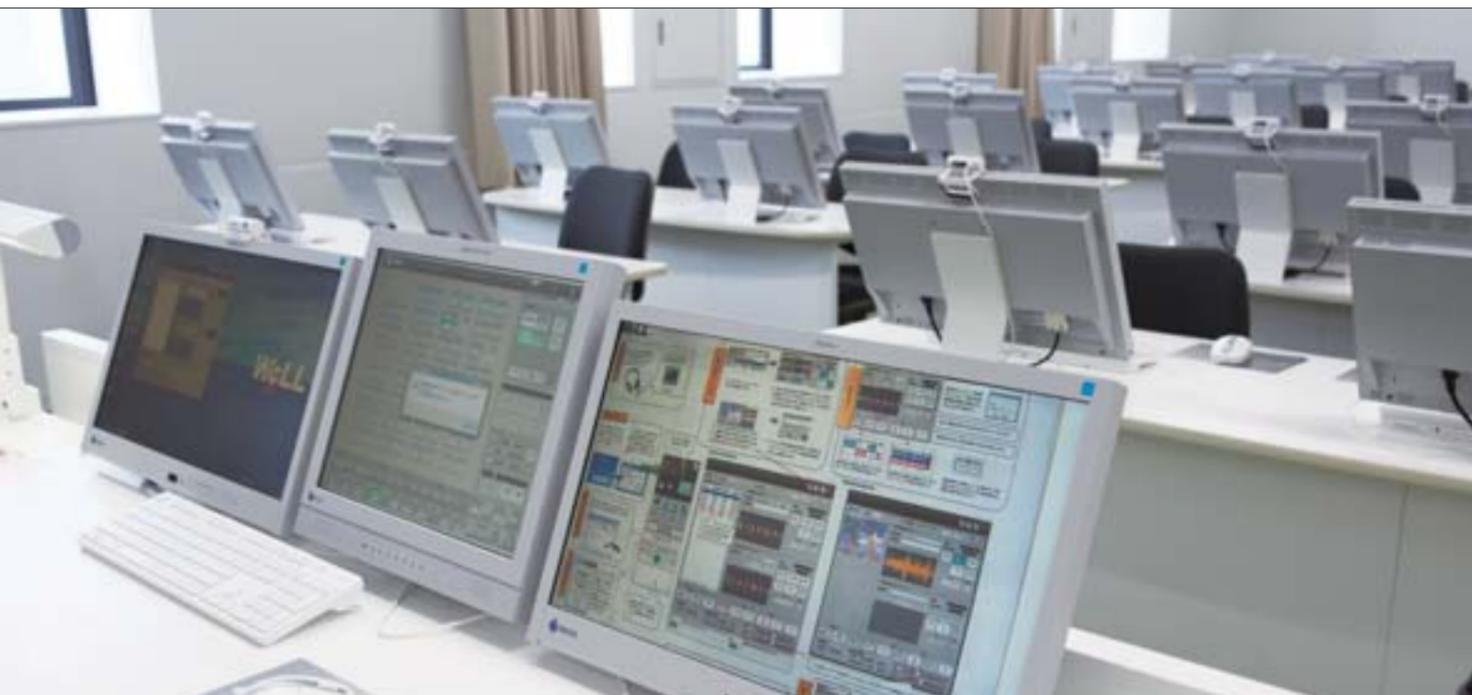
周囲を気にせず発声練習ができるクローズドな空間。

「学びたくなる」教育空間

同センターの顔、「語学学習の図書館」とも言うべき1階には、DVDやネットワーク教材などを自由に活用しながら自ら学べる「メディア学習室」が設けられた。また外国語でのプレゼンテーションやアクティビティの撮影や、オリジナル教材の作成が行える「AVスタジオ教室」をはじめ、会議室や応接室などを模した部屋でプレゼンテーションのトレーニングができる「グループ学習室」などユニークな設備も導入されている。

2階～4階には最新機器を完備する「CALL(コンピュータ支援型言語学習)教室」、「LL教室」、「AV教室」など、ITやコンピュータネットワークをフルに活用した教室が設けられている。

このように同センターには、教室での「授業」と学生の「自主学习・自主活動」を有機的に結合しながら、総合的な語学学習ができる充実した環境が整備されている。学生の評判も上々で、1階のメディア学習室には空き席待ちの順番がつくほど。現在は9時半から17時10分まで利用できるが「閉館時間を延長してほしい」との要望も多く寄せられている。



CALL教室：教室と調和のとれた色彩

教室空間とのマッチングを重視

画質の良さに加えて重視したのが製品デザインでした。当センターのリニューアルにあたっては、建物も設備もすべて一新。より充実した学びの環境をつくりたいとの思いから、教室の内装から什器備品にいたるまで、デザインや色彩の調和にも気を配ったのです。

21.5型モニターFlexScan EV2116Wを導入することになったCALL教室では、特注の学生用デスクを採用。スッキリとしたデザインで、かつ作業スペースも充分確保できるものとなりました。我々にとって好都合だったのは、モニター検討時期にちょうど「セレーングレイ」色をラインナップするFlexScan EV2116Wが発売されたこと。白が基調の教室のインテリアや什器備品とカラーコーディネートでき、望んでいた教室デザインが可能となりました。



I N T E R V I E W

**EIZOが導入できるとは思ってもみなかった。
長い目でみれば、むしろ割安。
うれしい誤算です(笑)。**

言語教育センター長
川瀬 義清教授



EIZOモニターは、品質はいいが値段が…

個人的にもパソコンのモニターはずっとEIZOを愛用。長年使い続けているので、その品質の良さは身をもって分かっているつもりです。長時間使用したときの目の疲れが違うし、製品デザインについても一歩抜き出ている。そんなこともあって「モニターならEIZOを」と思ってきました。

しかしEIZOにはひとつ欠点があって…、それは価格が高いこと(笑)。そのことは誤解だったということが後で判明するのですが…。

センター新設にあたって設備機器すべてを一新することになったので「学生にもEIZOを使ってもらいたい」と思いつつも「予算的にちょっとムリかも」と、半分あきらめていたのです。170台あまりの台数が必要となるCALL教室用のモニターは、パソコンメーカーのバンドル品にせざるを得ないかな、と思っていました。

ランニングコストも考慮して

そんなとき当センターのプランニングに携わってくれたコンサルタントに相談したところ、「EIZOから新しく教育用途にも適したコストパフォーマンスに優れた新製品が出ている」ということ、またEIZOのモニターは「5年保証」であるとの情報を得たのです。

旧言語教育センターのときに経験したのですが、モニターが一度壊れてしまうともう同じものは手に入らない。製品の移り変わりが激しいので違う種類やブランドのものを入れざるを得ない。ばらばらのモニターは学生にとって不都合だし、色やサイズがマダラになって見た目も悪い。そんな悩みを抱えていました。

EIZOモニターの故障率の低さは充分認識していましたし、加えて5年保証と聞いて「それでは」ということで検討を始めたのです。イニシャルコストとランニングコストをシミュレーションしてみると、予算的に十分にまかなえることが判明。さっそくEIZOからデモ機として3つの機種をお借りし教室で試用・テストした結果、CALL教室用モニターとしてFlexScan EV2116Wの導入を決定したのです。



代替機などフォローも充実

さらに心強いのは、故障した場合、修理期間中は無償で代替機を提供してくれること。担当するナナオ社員もフェースツーフェースできめ細かくフォローしてくれますので、安心して使ってください。

当センターには他大学から多くの方が視察に来られます。そのときこれほどのボリュームでEIZOモニターが入っていることに、皆さんびっくりなさいます。その時はいつもこうお答えしているのです。「長い目で計算してみてください。きっと御校でも導入できるはずですよ」と。



教材編集室 カラーマネージメント液晶モニター (ColorEdge CG243W-B)



教材編集室 フルHD対応23.0型液晶モニター (FORIS FS2332)

CALL教室用のFlexScanをはじめ、全4機種を導入。

◆西南学院大学に導入されたEIZOモニター



172台

フルHD対応21.5型液晶モニター (FlexScan EV2116W)

21.5型に高解像度1920×1080を表示。LEDバックライト、人感センサーを搭載した省エネ設計。外光センサーが周囲の明るさ(照度)を検知して、モニター表示を最適な明るさ(輝度)に抑える自動調光機能 Auto EcoViewを搭載している。



6台

フルHD対応23.0型液晶モニター (FORIS FS2332)

DVD視聴モニターとして採用。動画をはじめ表示するコンテンツに応じて常に適切に解像感補正を行う超解像技術「Smart Resolution」を搭載している。



6台

17.0型タッチパネル装着液晶モニター (FlexScan T1721)

CALLシステムのマスターコンソール用モニターとして使用。タッチ面は強化ガラスの採用により、傷や磨耗に強く高いタッチ耐久性を実現。タッチ方式は、超音波表面弾性波方式を採用。



1台

カラーマネージメント液晶モニター (ColorEdge CG243W-B)

ハードウェア・キャリブレーションによる厳密な色再現と滑らかな階調表現を実現。教材となる出版物や印刷物、DVDやWebなどのデジタルコンテンツ作成に活用。

決め手は5年保証。教育機関にはうれしい制度。

「まさかEIZOを導入できるとは思ってもみなかった」とセンター長の川瀬教授は振り返る。EIZOモニターの表示品質や信頼性は充分認識していたものの、総計185台ものモニターをEIZO製にすれば、確実に予算オーバーしてしまうものと諦めていたようだ。しかしEIZO製品の故障率の低さや5年保証(通常は液晶画面1年、本体3年保証)という条件を加味したとき、長期的にみると運用コストは安くなると判断し導入が決定した。

また教育機関としての性格上、学生全員に等しく揃った機材を用いて授業を行いたい。故障などで一人だけ違う機種を使わざるを得ないような状態はできる限り回避したい…そんな学校側の想いもあった。

同センター事務室の藤丸室長は「長期使用にも耐えられる信頼性と、万が一故障したときの保証、そして修理期間中の代替機の無償提供といったサポート体制…これらを総合的に勘案しての判断でした」と語る。



言語教育センター事務室
藤丸 孝幸 室長



AV機器集中管理システム フルHD対応21.5型液晶モニター (FlexScan EV2116W)

CALL教室用にFlexScan EV2116W 画面位置、機能性、本体カラーで選定

最も多くの台数を導入することになったCALL教室用のモニターには、FlexScan EV2116Wが選定された。その理由は幾つかある。

一つは机の上に設置したときの高さだ。教卓から見たとき、学生の顔が隠れない高さのモニターが求められた。画面サイズ4:3のいわゆるスクエア型モニターでは20インチ未満の小さな製品はほとんど生産されなくなってきた。スクエア型に比べ16:9タイプのは画面サイズが低背ではあるが23インチ以上の大型モニターが主流を占めている。こうした中、21.5型でフルHD機能を備えたEV2116Wが「学生の顔が隠れない高さ」という要求基準を満たす機種としてピックアップされた。

EV2116Wには「セレーングレイ」色がラインナップされており、白を基調とした教室のインテリアにもよくマッチするものとなった。また蛍光灯や屋外光の映り込みを抑えるノングレアパネルを採用していることも、EV2116Wの採用を決定づける大きな要因だった。



フリーマウント対応モデルで特注スタンドに設置

またモニターは特注スタンドによってテーブルに固定されることになった。授業終了後などにモニターが乱雑な向きのまま放置されるのを防ぎ、デスクトップと教室空間を整理とした状態に保つためである。こうしたニーズに応えるためEV2116Wにはスタンドのないフリーマウントモデルがラインナップされている。

特注スタンドを採用したことによってキーボードはモニター下部に収納できるようになり、デスクトップには十分な広さの作業スペースを確保できるようになった。



テーブルに固定された特注スタンド

同一機種大量導入のメリット

EV2116WはCALL教室のほかLL教室の教卓モニター、センター1階に設けられた発声練習ブースのモニターとしても利用されている。その数は合計172台に上る。万一動作不良のモニターが出ても即座に他教室のものとして一時交換ができるといった利便性もさることながら、同一機種大量導入での設置等のコストダウンや、解像度設定やドライバインストール、機種ごとの操作方法の習得などに手間がかからない…といったこともメリットとしてあげられる。施設管理上、重要なポイントといえよう。

成功の秘訣は「こんな設備にしたい」という明確なビジョンと意志

12年4月の開設以来、学生と教職員の当センターに対する評価は日々高まっている。利用者数も順調に伸び、「語学の西南」を象徴する新しい言語教育の「場」として他校からも熱い注目を集めている。

その成功の秘訣は何か。川瀬教授は次のように語る。「こんな教育の場にしたい。そのためにはこんな設備が必要だ」というビジョンを持つこと。そしてそれを貫く意志を持つことです」

建設プロジェクトには多くのステークホルダーが関わるが、往々にしてコンピュータや学習システムといった中核設備を扱うメーカー主導で、各種設備機器が決定されることが多い。しかし西南学院大学では、当センターの建設プロジェクトにおいて「大学主導」の立場を貫き、教育ビジョンに基づいて明確なコンセプトを立ち上げて施設的设计、設備の選定を行ってきた。コンサルタントによる第三者の立場からの検証も奏功した。こうしたプロセスを経ながら、納得のできる設備機器を一つ一つ丁寧に選択していったのである。

